

令和5年度  
地域課題アンケート調査報告書

令和6年3月  
地域しごとサポートセンター但馬

## 第1章 調査概要

### 1. 調査目的

- ①但馬で地域づくり等の活動をされている団体が、活動の中で必要と感じている地域課題を把握する
- ②アンケート調査結果をもとに、地域課題やニーズに沿った支援、担い手の育成を行う
- ③調査結果を地域のNPO や企業、行政などに広く共有し、施策内容や事業展開の場面で活用いただく

### 2. 調査対象

但馬地域で活動している市民団体やNPOなど

### 3. 調査期間

2024年1月24日（水）～2024年2月29日（木）

### 4. 調査方法

メールや対面で依頼し、Google Forms または紙面（FAX）での回収

### 5. 調査項目

- ①基本情報（団体名／住所／活動エリア／活動分野／活動頻度／スタッフ利用者数など）
- ②地域課題について（活動の中で感じる困り事、今後取り組みたいと思っている事など）
- ③担い手育成について（地域課題に取り組む担い手養成をしているかなど）

### 6. 回答数と属性

15団体から回答をいただいた。活動分野、活動エリアの内訳は以下のとおりである。  
なお、活動エリア・活動分野ともに複数回答可としている。

	豊岡市	養父市	朝来市	香美町	新温泉町	但馬全域
子ども・子育て	2	3	1		1	2
若者				1		1
高齢者		1	1	1	1	2
障がい者	1	2	1	1	1	2
外国人						1
農業・自然環境		1				
防災		1			1	1
その他	1		2			3

## 第2章 調査結果

### 1. 地域課題について

#### 地域別のキーワード

豊岡市	教育、食、つながり（連携）、ICT、相談場所、お金、居場所、時間的ゆとり、休息
養父市	お金、居場所、時間的ゆとり、休息、移動支援×2（買い物、通院、余暇）、介護保険制度外の支援（大型荷物の移動）
朝来市	情報発信、周知広報、送迎（集いの場、買い物）、介護保険制度外の支援
香美町	移動支援（集いの場）、介護保険制度外の支援、居場所
新温泉町	移動支援（買い物、集いの場）
但馬全域	多様性×2、つながり×4、他者理解×2、情報集約・発信、助け合い、担い手（支援員）、相談場所、居場所、応援
兵庫県全域	つながり（継続的な）

#### キーワードごとの特徴（上位8つについて）

##### 【移動】15団体中5団体が回答

- ・最も多く見られたキーワードの1つ。但馬地域の公共交通機関の縮小が背景にある。
- ・高齢者支援を行う7団体中5団体が移動を課題に挙げた。また、5団体は活動地域もバラバラで、豊岡を除くすべての市町から挙げられた。
- ・移動の中でも、買い物や集い場へ行くための手段がないという声が多かった。

##### 【つながり】5団体が回答

- ・移動と並び、最も多く見られたキーワードの1つ。
- ・地域住民同士のつながり（顔の見える関係）や、支援者同士のつながり（連携）、支援者と利用者の継続的なつながりの3つの意味合いが見られた。
- ・回答した団体の活動分野に偏りはなく、子ども子育て、若者、高齢者、障がい者、外国人、防災と、幅広い分野から出されている。

【居場所】3団体が回答

- ・2番目に多く見られたキーワードの1つ。
- ・居場所と似たキーワードに【相談場所】があるが、ここでは「相談」という目的なしでも集まれる場所を「居場所」と定義する。
- ・居場所の必要性についての回答は、子ども子育て、高齢者、障がい者と、対人支援をしている且つ居場所を運営している団体に見られた。

【介護保険制度外の支援】3団体が回答

- ・居場所と並び、2番目に多く見られたキーワード。
- ・介護保険制度外の支援の必要性について記載があったのは3団体。どこも高齢者の支援を行っている。
- ・介護保険制度外の具体的なニーズとして、服薬の確認、除雪やゴミ出し、大きな荷物の移動などが挙げられている。

【多様性・他者理解】2団体が回答

- ・3番目に多く見られたキーワードの1つ。
- ・外国人支援団体、発達障がい支援団体から出されている。
- ・地域に多様な人が住んでいるということを理解してほしい、障がいを正しく理解してほしいというニーズが挙げられた。

【相談場所】2団体が回答

- ・3番目に多く見られたキーワードの1つ。
- ・2つの団体から出されており、支援者が相談できる場所のニーズ、支援対象者が相談できる場所の増加が挙げられた。

【情報集約・発信・周知広報】2団体が回答

- ・3番目に多く見られたキーワードの1つ。
- ・2つの団体から出されており、ヒト・モノの共有や、情報発信の仕方に悩む人が多いというニーズが挙げられた。

また、回答団体が今後取り組みたいと思っている活動には、以下が挙げられた。

活動の幅を広げる	8団体
連携先の拡大	3団体
周知広報の強化	3団体
担い手の確保	2団体

15団体中8団体が、「活動の幅を広げる」ことに取り組みたいと回答している。

次いで、連携先の拡大や周知広報が並ぶ。

今後の取り組みを実行する上での課題については、主に以下の3点が挙げられた。

担い手の確保	5団体
地域との連携	3団体
ニーズ発掘	2団体

ほかにも、メンバーのスキルアップや金銭面、地域の理解などが出された。

担い手の確保は、15団体中5団体が課題と挙げている。

1つ前の「今後取り組みたいこと」の回答と合わせると、「担い手の確保」を今後の焦点としている団体は15団体中6団体ある。

## 2. 担い手育成について

---

### 担い手育成についての結果

している	8
したいけどできていない	6
していない	1

担い手育成をしている団体は、15団体中8団体ある。したいけどできていない団体を含め、担い手育成に前向きな姿勢を示した団体は14団体となった。

### どのような担い手育成をしているか

担い手育成をしていると回答した8団体のうち、5団体が学習研修の場の創出を通じた担い手育成を行っている。また、3団体が担い手養成講座を実施している。他にも、連絡会の実施、地域に出て話し合う、が挙げられた。

### できていない、していない理由

担い手育成をしたいけどできていない、またはしていないと回答した7団体の理由としては、専門的知識や体力知力を必要とするなど、担い手となるハードルが高いと回答した団体が2つ、育成するための候補者の確保が難しいと回答した団体が2つあった。他には、人手不足で育成までする余裕がない、活動自体がどれだけ地域課題の解決になっているか不明確な部分があるという回答があった。また、「理解が得られない」という回答があったが、これは団体メンバーから担い手を育成することへの理解が得られないのか、外部からの理解が得られないのかが不明であり、確認が必要である。

## 第3章 考察

### 1. 地域課題について

---

#### ◎ 移動手段が乏しいことが但馬全域で共通の課題

今回アンケートの回答をいただいたのは、15団体とかなり少ない数であったにも関わらず、多地域の団体から「移動」に関する課題が挙げられた。また、移動の中でも「買い物支援」と「集い場への交通手段」に関する課題が多く見受けられ、移動手段がないことで免許を返納した高齢者や独居高齢者が孤立していく現状に危機感を抱いている地域が多いように感じられた。また、「移動」の課題を挙げた団体すべてが高齢者を対象とした活動を展開しているが、高齢者だけでなく、子ども・子育て世帯、若者、障がい者など、幅広い世代への支援も行っていることが特徴である。移動支援のニーズが、高齢者に限らず子ども・若者にもニーズがある可能性が考えられ、今後の調査の検討事項としたい。

#### ◎ 高齢者支援では、介護保険制度外のニーズがある

高齢者を対象に活動を行う団体から出された課題に、介護保険制度外の支援ニーズがあった。服薬の確認や、雪の日の除雪、ゴミ出し、大型荷物の移動など、そこまで時間を要しないが必要なことである。これも、核家族化が進み、独居高齢者が増えたことによる昨今の喫緊の課題であると感じられる。このようなちょっとした困りごとを気軽に頼めるような有償ボランティアを望む声もあり、これから求められていく地域の力の1つであると感じた。

#### ◎ 多様な人とのつながりを必要としている

「居場所」以上に多くの団体が挙げていたのが「つながり」である。しかし、団体ごとに、どのようなつながりを必要と感じているかが異なっており、本調査を通しては3つの種類が見られた。1つ目は、地域住民同士の顔の見える関係性の構築という点での住民同士のつながり。2つ目は、支援者が他団体や行政などの地域の多様な人々と連携していくための支援者同士のつながり。3つ目は、支援団体が利用者となつながら続けることである。特に注目したいのが、2つ目の支援者同士のつながりである。今後取り組みたいことの項目でも、連携先の拡大と答えた団体がいくつかあり、活動分野や地域を問わず、多くの団体からつながりの必要性が感じられた。活動そのものを地域に根付かせ、発展させていくためには、地域の他の団体との関わりも必要であることが考えられ、支援者同士の交流の機会のニーズもあると感じられる。

◎ 居場所ニーズは地域にいくらでもある

地域課題として「居場所」の必要性を挙げている団体は、どこも自分たちで既に居場所づくりに取り組んでいる団体であった。「行く場所を選べるようにしたい」という意見もあり、自分たちのところだけでは必要な居場所のニーズは満たしきれていないと感じている様子が伺える。これには、同じく多くの団体が挙げていた「移動手段」の問題が背景の1つにあるのではないかと考えられる。歩いて行ける距離に居場所があって、行く場所が選べるのが、地域住民に求められていると感じる。

---

## 2. 担い手育成について

---

◎ 新たな人材発掘の必要性

今後取り組みたいことや、取り組みたいことを実現する上での課題として多くの団体から挙げられたのが「担い手の確保」である。実際、ほぼすべての団体が担い手育成については前向きであり、半数はすでに担い手育成に取り組んでいると回答した。しかし、育成はしているがそれでも課題と感じている団体があることが結果として分かった。

担い手育成をすでにしている団体の多くは、学習研修の場の創出を通じた担い手育成を行っている。この学習研修の内容について、本アンケートでは調査しきれていないが、どのような内容であるのか、学びをアウトプットする場がどこまで準備されているかが、受講者が担い手となっていくための鍵であると考えられる。

また、担い手育成をしたいけどできていないと回答した理由として、担い手になるための知識・体力面でのハードルが高いこと、担い手候補となり得る母数が少ないことが挙げられた。知識・体力面でのハードルは、ボランティアなどをお願いすることが難しく、有償ボランティアや仕事として一定の成果を分配することで担い手の確保がしやすくなることが考えられる。また、そもそも育成する人材の母数が少ないことも挙げられており、地域に眠る新たな人材の発掘が求められていると感じる。

---

## 3. 地域しごとサポートセンター但馬として取り組むこと

---

今回のアンケートの結果を受けて、令和6年度は以下の2点を重点的に取り組みたい。

① 移動支援についての学習機会の創出

全国で人口減少、少子高齢化が進む中、過疎が進む地域で全国共通の課題である「移動」について、但馬で先進的な取り組みをしている地域や、全国の先進事例を地域の方と学び合う機会を設けたい。地域しごとサポートセンター但馬としても、アウトリーチ活動などを通して引き続き移動支援のニーズの掘り起こしを行い、先進事例を地域に合った形で取り入れられるよう支援を行う。



## ② 支援者同士の交流機会の創出

今回、地域地域や分野に関わらず多くの団体から「つながり」というキーワードが挙げられた。但馬は、都市部と比較すると隣近所の相互扶助がまだ残っている地域ではあるが、アンケートから見られた「つながり」は、そうした地域住民同士のつながりだけでなく、支援者／支援団体同士のつながりであった。他の団体や自治体との連携を模索する声も見られたため、そうした連携の第一歩となるような支援者同士の交流機会をつくりたい。